

平成22年度地域木造住宅市場活性化推進事業費補助金成果報告書

1. 事業名

- ① 地域木造住宅建設拡大のための信州木材認証製品対応横架材スパン表作成事業
- ② 地域工務店が造る家の地域貢献度調査に基づく地域木造住宅の普及促進事業
- ③ 地域工務店育成のための、地域木造住宅「ふるさと信州・環の住まい」スキルアップセミナー事業

2. 事業実施期間

平成22年6月11日 ～ 平成23年3月25日

3. 事業主体

信州木材認証製品センター

4. 事業の成果

≪①地域木造住宅建設拡大のための信州木材認証製品対応横架材スパン表作成事業≫

4-1-1 事業の実施方法

長野県への協力及び研究実績やデータの蓄積等がある信州大学工学部建築学科 五十田研究室へ委託することにより、長野県を代表する樹種である「カラマツ」「スギ」のスパン表を作成することができた。

スパン表を作成する上で必要なデータは、長野県林業総合センター等において、信州木材製品認証基準に基づき製造された横架材（KD材）を曲げ強度試験等を行い測定し、一般的な荷重条件等を設定したうえで構造計算を行いスパン表を作成した。

4-1-2 取組経過

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 7月～ | スパン表事業の内容等検討 |
| 9月28日 | スパン表策定準備委員会の開催 |
| 10月中旬～ | 試験体材料（カラマツ200本、スギ200本）を製材工場等に依頼 |
| 10月21日 | 第1回スパン表策定委員会の開催 |
| 11月～12月中旬 | 原木（丸太）の調査 |
| 12月14日 | 第2回スパン表策定委員会の開催 |
| 1月～2月中旬 | 曲げ強度試験、試験データ解析等 |
| 2月24日 | 第3回スパン表策定委員会の開催 |
| ～3月末 | スパン表作成 |

4-1-3 事業の達成状況

信州木材認証製品対応（カラマツ・スギ）の横架材スパン表を作成することができた。

※別添、成果物「信州木材認証製品対応スパン表」のとおり。

4-1-4 今後の事業の展開に関する計画等

今後、本スパン表を地域工務店等に利用していただけるよう情報提供し、講習会等通じて広く周知し、県産材を使用した質の高い木造住宅建築の促進や県産材の需要拡大を図りたい。

《②地域工務店が造る家の地域貢献度調査事業に基づく地域木造住宅の普及促進事業》

4-2-1 事業の実施方法

本調査のうち、地域貢献度の数字を導き出す調査（経済的意義）を下崎明久建築士に委託、また、地域木造住宅の社会的意義や戦後の住宅事情の変化などに関する調査と総合的なとりまとめを、本調査の企画者でもある建設専門紙の新建新聞社に委託して複数の冊子にまとめた。

4-2-2 取組経過

【地域貢献度調査】

- 7月～8月 調査の方針・実施方法をまとめ調査シートを作成した。
- 9月～10月 地域工務店をはじめとした住宅ビルダーらに調査を依頼。各社に標準的仕様住宅の工事内訳書の内容を記載してもらい調査シートを回収。調査シートへの協力が得られない先については工事内訳書の提出も可とした。
- 11月～2月 「地域木造住宅 地域貢献度調査・研究」にとりまとめ。併せて、「住宅の建て方・工事費の仕組みと地域貢献度」を作成。
- 12月～2月 上記調査・研究結果を踏まえ、「地域貢献度の高い地域貢献度型住宅建築仕用書及び地域貢献度型住宅モデル」を作成。

【社会的意義の調査、総合とりまとめ】

- 8月～2月 地域木造住宅の社会的意義について、学識者、工務店、棟梁、業界団体に取材すると共に、文献、インターネットを使って調査。下崎建築士による地域貢献度調査を踏まえて、「地域工務店が造る家の地域貢献度調査事業報告書」にまとめた。

4-2-3 事業の達成状況

- ①「地域工務店が造る家の地域貢献度調査事業報告書」をまとめ、(A4、80頁)を300部印刷。地域木造住宅の社会的な意味合いを一般消費者にも理解してもらえる基本的なコンテンツをまとめることができた。同時に、地域工務店に対し、住宅事情の変遷をたどることにより、地域工務店の過去の反省と未来に向けての住宅づくりの示唆が得られる内容となった。
- ②「地域木造住宅 地域貢献度調査・研究」において目的通り、地域貢献度の高さが確認できた。地域貢献度はそれぞれ、地域工務店による地域木造多用した住宅が約60%、地域工務店による地域木材非使用タイプが約45%、ハウスメーカー住宅約30%となった。このほか、県外由来の新建材や住宅設備機器の影響力が強いことも判明した。地域材利用、手刻み建築、左官職人、木製建具や木製家具などの地域職人が積極的に関わる家づくりが望ましいことも考察できた。
- ③「地域貢献度の高い地域貢献度型住宅建築仕用書及び地域貢献度型住宅モデル」を作成。地域木造住宅の地域貢献度の調査結果をさらに意義あるものとするために、地域木造住宅の取り組みを具体的に推進するツールとして、長野県内における地域貢献度の高い地域木造住宅の仕様とモデルを提案した。

4-2-4 今後の事業の展開に関する計画等

本調査のコンテンツをもとに、地域木造住宅の振興に向け一般消費者への啓発活動を実践してていく。具体的には小冊子のような噛み砕いた資料を作成、新建新聞社が長野県内で発刊する住宅雑誌でも今回のコンテンツを生かしPRしていく。地域住宅ビルダーに対しても、本調査内容や地域貢献度の高い住宅建築仕様書の活用を長野県林務部、新建新聞社らと連携して周知に努める。具体的には、全国住宅専門紙の新建ハウジング、新建新聞への記事掲載とともにワークショップなども開催していく。

《③地域工務店のための地域木造住宅スキルアップセミナー》

4-3-1 事業の実施方法

建設専門紙の新建新聞社が実施主体となって企画・実行

4-3-2 取組経過

セミナー開催：8月18日、9月7日、9月21日、10月7日、10月19日の全5回

会場：長野市 トイゴ 申込者数：89人

基本コンセプト：長野県の住宅施策「ふるさと信州環の住まい」と国の長期優良住宅の補助認定住宅を自力で対応できる建築技術知識の習得。



青木建築士がメイン講師を務めた 長野県住宅課も講師を4回派遣 自らも県産材活用をPRした

第1回：テーマ：「ふるさと信州・環の住まい、長期優良住宅のCASBEE」

講師：青木和壽建築士「3つの制度に対応する手続きフロー」 長野県住宅課「住宅施策の概要説明」 長野県住宅課 参加者数：84人

第2回：テーマ：「温熱環境」

講師：小林義孝氏（I B E Cの省エネ建築技術の指定講師）「温熱環境」、長野県住宅課「ふるさと信州環の住まいの温熱環境」 参加者数：80人

第3回：テーマ：「劣化対策と構造安定性」

講師：青木和壽建築士「劣化対策の考え方、構造安定性その1」 長野県住宅課「ふるさと信州環の住まいの劣化対策と安定性」 参加者数：67人

第4回：テーマ：「構造安定性」

講師：青木和壽建築士「構造安定性その2、その3」 参加者数：74人

第5回：テーマ「維持管理対策」と書類のまとめ方

講師：青木和壽建築士「維持管理対策、補助金獲得に向けた書類のまとめ方」 長野県住宅課「ふるさと信州環の住まいと長期優良住宅の書類の注意点」 参加者数：82人

4-3-3 事業の達成状況

セミナー参加者アンケート

最終回にアンケートを実施したところ、回答者の約92%が「大変役に立った」「まあまあ役に立った」と回答した。

ふるさと信州環の住まいの申請状況

4月に始まった100万円の申請受付は、セミナー開始後の9月以降に急上昇。9月49件、10月は56件と、10月末を迎える前に応募枠の180件に達した。新建新聞社は5月、6月にも簡易セミナーを2回開いており一定の貢献を果たしたと考える。